

治水神社玉垣改築実行委員会設立趣旨

宝暦年間に江戸幕府の命を受けた薩摩藩は、多大な犠牲を出しながら宝暦治水と呼ばれる木曾三川治水工事を完遂されました。昭和十三年、薩摩義士の名を世に知らしめるために奔走した多くの地元篤志家らの長年にわたる運動が実り、平田靄負翁をご祭神に、観音堂を含めてすべての薩摩義士が祀られる治水神社が十年もの歳月をかけて創建されました。今日まで八十有余年の長い間、松籟を聞き、風雪に耐えながら薩摩義士の偉業を顕彰する中心施設、そして岐阜と鹿児島の友好のシンボルとして、多くの皆様に大切に護られながら推移してまいりました。

しかしながら、歳月の経過とともに社殿等の修繕箇所が目立つようになります。特に社殿を囲む玉垣は基礎部分が崩れ始め、木柱は曲がり、腐るなど目に余る状況となっております。このままでは、玉垣が倒壊し、参詣者に危害を与える可能性も考えられ、早急に改築等の対策が必要となっております。

平成三十年は治水神社創建八十周年の節目にあたることから、私たちはこの機会をとらえ、多くの皆様から修繕資金を募り、早急に玉垣を改築するとともに、薩摩義士の崇高なる精神の継承と薩摩義士顕彰活動が一層深まるすることを期待して「治水神社玉垣改築実行委員会」を設立いたします。